



第 61 号

(年 4 回発行)

編集発行

弘前学院大学
前報委員 学会
広報

印刷所

(有)小野印刷所

ソウル神学大学から 特別講演を依頼される



学長 吉岡 利忠

今年のノーベル賞受賞者が発表になった。二人の日本人研究者が生理学・医学賞および物理学賞の榮譽に輝いた。日本におけるさまざまな分野の研究は世界をリードしており、ここ数年特にそのように感じる。若手の研究者にはますます励ましとなり、今後のノーベル賞受賞が期待される。

さて、弘前学院大学は国際交流に力をいれている。国際的感覚を身に付けグローバル社会で活躍できるというコンセプトを基本として、国際交流事業には学生・教員・職員が一つになっ

て対応している。国籍が異なる教員の協力のおかげで、これまでにアメリカ合衆国のウイスコンシン大学、シエナドア大学、ノースセントラル大学、中国の上海華遠国際教育機関、韓国の培花女子大学、釜山科学技術大学としてソウル神学大学と多くの大学と姉妹関係を提携している。毎年、アメリカからは数人

の学生が来校し本学学生との交流はもとより日本語や日本文化を体験し異文化科目の単位を受けて帰国しているし、本学からも数人の学生の短期長期留学研修が継続している。

2014(平成26)年3月25日(火)にソウル神学大学において、弘前学院大学とソウル神学大学との交流協定調印式が行われた(写真1)。その後、11月13日(木)にソウル神学大学から柳錫成総長(神学博士、韓国基督教学会会長)ら一行が来校し(写真2)、本学創立記念講演として柳錫成が「平和を現する人々」と題して講演を行った。また、本年2月26日(木)にはソウル神学大学の学生7名と教員2名が本学を訪問し、その記事が弘学時報第59号に掲載されている。

ソウル神学大学は1911年に創立し100年を経過する総合大学である。100周年記念行事として最も新しい図書検索方式を導入した立派な図書館が建設されている。図書館は、もちろん市民にも開放され、夜遅くまで開館している。大学は神学科、日本語科、音楽科をはじめ11科で構成されており、1971年に設置された大学院(5分野)を含め数千名の学生が修学している。社会学

疑の目をもつて警戒するのは不当であると述べている。この度の海外旅行のもう一つの目的は六月十四日からスコットランドのエンジンバラで開かれる世界宣教会大会に参加するため、本多はアメリカから太平洋を渡った。日本からは本多のほか、井深梶之助、千葉勇五郎、蛭名弾正はじめ数人が列席した。本多はここで、アジアを代表して演説し、欧米諸国が異邦人である我々のために宣教師を送ってくれたことは感謝の至りであるが、無能なものがかえって障害になるばかりであるから、今後派遣されるべき宣教師は、有

生も多いと説明があった。韓国におけるキリスト教主義を背景にした大学では最も規模の大きな大学である。学生の約4割はキリスト教者として聞いている。柳錫成総長の発案で、学生、教員、職員に「3・3・3運動」を推奨している。すなわち、毎日聖書を3章以上読もう、毎日3分以上お祈りしよう、そして毎日3度以上愛の実践をしよう、ということだ。キャンパス内にそれを記した登り旗がはためいている。

さて、10月1日(木)にソウル神学大学より特別講演を依頼され約1時間半の講演を行って来た(写真3)。大学正面入り口やキャンパス内には大きな看板によって宣伝されていた。大講堂には市民を含めおおよそ3000人の参加者があった。最初に日本列島の青森県の位置関

本多庸一とキリスト教 (3)

学校法人弘前学院
理事長・学院長 阿保 邦弘



最後の海外旅行

明治四十三年四月六日、本多はアメリカ、イギリス、カナダにおける各種の宗教大会に出席するために横浜を出帆した。アメリカ行としては五回目、ヨ

ロッパ訪問は三回目、彼の生涯最後の欧米旅行となった。ハワイで歓迎を受けてアメリカに到着した彼は、五月四日から北カロライナ州アッシュビルで開かれた南メソジスト教会の総会に出席し演壇に立った。

本多渡米の主要目的であった世界日曜学校大会は五月十九日からワシントンで開かれた。大統領タフト自ら歓迎の辞を述べ、参加者一万人に及ぶ盛会であった。本多は、植村正久、内村鑑三、松村介石と並ぶキリスト教

四村の一人である田村直臣ら数人の日本人とともに列席し、アジア代表として演説したが、その中で彼は日本の伝道事情と日曜学校の果たした功績について述べるとともに、日本の国際的・軍事的立場について論じている。当時、第一次世界大戦が四年後に迫っていた一九一〇(明治四十三年)列強の帝国主義的競争が激しく一触即発の危機が次第に様相を濃くしていた時であった。本多は列強の軍備拡張競争の中で、無防備なアジアに位置する日本が軍備を整えることはやむを得ないところであった、それを諸外国がことさら猜

疑の目をもつて警戒するのは不当であると述べている。この度の海外旅行のもう一つの目的は六月十四日からスコットランドのエンジンバラで開かれる世界宣教会大会に参加するため、本多はアメリカから太平洋を渡った。日本からは本多のほか、井深梶之助、千葉勇五郎、蛭名弾正はじめ数人が列席した。本多はここで、アジアを代表して演説し、欧米諸国が異邦人である我々のために宣教師を送ってくれたことは感謝の至りであるが、無能なものがかえって障害になるばかりであるから、今後派遣されるべき宣教師は、有

能にして生活厳しく、人格的に優れた人物でなければならぬと説いた。この大会のち、七月初めに本多はふたたびアメリカにわたる八月に入ってからカナダに向かい、八月中旬にはカナダ・メソジスト教会の総会に出席して演説した。その後九月中旬まで、太平洋沿岸各地の日本人教会を歴訪し、九月十八日サンフランシスコからハワイにいたり、ここで二週間、説教演説十六回にわたる伝道運動を展開したのち、十月十四日、横浜に帰国した。四月初めの出発以来半年余りの旅であった。

半年の外遊から帰って休む暇なく本多は韓国に渡った。これは彼の第五回目の、そして最後の韓国旅行であった。それはソウルで開かれる韓国メソジスト教会宣教二十五周年記念会に参列するためであった。この年、二月二十九日には日韓併合が行われていた。もともと彼は韓国に対して大いに関心を抱いていたようであって、すでに明治二十年ころからことあるごとに意見を発表し、その教育事業にも関係した自らもこれまでに四回伝道旅行に赴いている。一年前、すなわち明治四十二年十月二十六日、朝鮮統監であった伊

藤博文がハルビン駅頭で暗殺された事件は、いたく本多を刺激したと見えて彼は房総に静養中であつたが、十一月六日附の「護教」九五〇号に「監督公書」を発表し所信を表明した。これは、この事件を契機として広まった韓国における日本の宗主権強化に反対している。つまり、尊大な国家主義や偏狭な国粹主義に対して警告を發し、世界的視野に立つことを強

調するのであつた。(以下次号)



写真1 ソウル神学大学における調印式。柳錫成総長(右)と吉岡利忠学長。

心臓循環器や呼吸機能のアップ

が山の中腹にありソウル神学大学も同様。学生は否応なしに一日に何度となく急な坂道を上り下りする。自然とトレーニングが負荷されることになり健康的な学生が多いように見えた。講演の初めと終わりに韓国語で挨拶したこともあり、また日本

語科の崔順育教授の適切な通訳が功を奏したのであろう、反響が大きかったと聞いた。ソウル神学大学の総長はじめ教職員のホスピタリティーには感謝である。

尚、音楽会については、本学まで問い合わせ下さい。(TEL0172 (34) 5211) チェロ独奏・金管五重奏・ソプラノ独唱・パイプオルガン演奏他を予定しています。



写真3 ソウル神学大学大講堂前の横幕をバックにして

お知らせ

◆クリスマス礼拝

12月10日(木) 16時より

◆クリスマス音楽の夕べ

12月10日(木) 18時30分より

場所: 弘前学院大学 礼拝堂
入場無料(整理券配布)

尚、音楽会については、本学まで問い合わせ下さい。(TEL0172 (34) 5211) チェロ独奏・金管五重奏・ソプラノ独唱・パイプオルガン演奏他を予定しています。



リバーサイド・メソジスト教会訪問記念
明治43(1910)年9月

研究紹介 30

周作人をめぐって忘れえぬ人々

日本語・日本文学科 教授 顧 偉良



日本各界人士による周作人宛 1400通書簡発見をめぐって、日本の新聞メディアでは大きく報道された。書簡人名リストは、本学のホームページ (http://www.hirogaku-u.ac.jp) に掲載され、沢山の問い合わせがあった。

この書簡を貰った周作人は、翌年起きた文化大革命の嵐で紅衛兵からリンチを受けた。更にその翌年の五月六日この世を去った。毛沢東時代に公民権を奪われた周作人はギリシア古典・日本文学の翻訳に没頭したが、最晩年に災難に見舞われた。

現在、中国国内の人士より周作人宛の書簡は約二万通あるが、その中から更に日本の友人より送られた書簡や葉書が数十通発見された。この二万通余りの書簡の年代は、一九一〇年代から一九六六年までである。周作人は書簡を大切に保管し、日記にも記した。一九四五年、国民党の軍隊による家宅捜査の際には、これらの書簡が持ち去られなかったが、文化大革命(1966)の際に紅衛兵の家宅捜査に見舞われ、遺品や書簡は全部持ち去られた。その二十

年後にこれらの書簡が北京の魯迅博物館にあるのを知って、関係部門との交渉により漸く書簡は遺族の手許に戻された。だが一部の書簡や手稿も紛失。例えば、周作人の手稿「日本近三十年小説の発達」が近年北京のオークションに高値で取引にされたのが有名な話だ。これらの書簡は、正に時代に翻弄された周作人の人生を物語っている。

現在、谷崎潤一郎記念館には谷崎から周作人に贈られた書画(掛け軸)二冊の『台所太平記』がある。それは、岐阜県に住む柳玖美さんが夫の遺物を整理した時に発見し記念館に寄付したという。柳玖美さんは、周作人の息子である周豊一氏と一緒に二十年間近く北京図書館に勤務したことがある。その掛け軸と本は、文革の時代に周豊一氏から柳玖美さんに預かったという。柳玖美さんは新聞報道で書簡を知り、電話で知らせてくれた。

柳玖美さんは、一九五二年に華僑である夫の翁祖雄さんと共に新中国に渡った。その後、二人は北京で三十年近く日本語関係の仕事をしてきた。そして、かつて通りすがりの私に、見渡す限り一面にコスモスの花が咲いているところに出かけることができた。それはもう夢の中にいるようです。もう少し身近に楽しむことができるのが、道路わきに咲くコスモスです。秋の青い空の下、数本ずつまとまって、その花と葉っぱをゆつたりゆつたりと眺め、また時にゆるやかに風にゆれているのを見ると、なんだかとても楽しくなってきます。日々こんなふう

に少しでも季節のそれぞれにふれることができれば、それだけで嬉しいですし、それを楽しみます。その後、廃れた都東京の西部に桜美林学園を創設、今や中学校、高等学校、短期大学を持つに至った、などと伝えた。

この書簡を貰った周作人は、翌年起きた文化大革命の嵐で紅衛兵からリンチを受けた。更にその翌年の五月六日この世を去った。毛沢東時代に公民権を奪われた周作人はギリシア古典・日本文学の翻訳に没頭したが、最晩年に災難に見舞われた。

談話室

秋について

英語・英米文学科 教授 吉永 直子

このあいだ休日を利用して帰郷した時のことです。久しぶりにキンモクセイの花をつけたところを見るのができ、「もう何年もこの景色、このお祭り、ここで味わってなかったかもしれない」と、ちよっと嬉しくなりました。まだほんの少しだけ咲いた花が咲いていて、あたりはふわりとあまいかおりがしていましたが、記憶ではもう少し遅い時期にならないと咲かないよう

な気がするので、今年はずっと早めだったので、今年はずっとともラッキーな気分になりました。季節のものは期間が限られていて、なかなかそのタイミングがむすばしく、でもだからこそ、ちよっと見ることができたときの嬉しさが大きいのも無理はないと思ったりもします。

季節のものとえば、秋にはコスモスが特に気にかかります。やはりちよっといいころあいに計画できないことのほうが多

かたりするのですが、見渡す限り一面にコスモスの花が咲いているところに出かけることができた。それはもう夢の中にいるようです。もう少し身近に楽しむことができるのが、道路わきに咲くコスモスです。秋の青い空の下、数本ずつまとまって、その花と葉っぱをゆつたりゆつたりと眺め、また時にゆるやかに風にゆれているのを見ると、なんだかとても楽しくなってきます。日々こんなふう

に少しでも季節のそれぞれにふれることができれば、それだけで嬉しいですし、それを楽しみます。その後、廃れた都東京の西部に桜美林学園を創設、今や中学校、高等学校、短期大学を持つに至った、などと伝えた。

この書簡を貰った周作人は、翌年起きた文化大革命の嵐で紅衛兵からリンチを受けた。更にその翌年の五月六日この世を去った。毛沢東時代に公民権を奪われた周作人はギリシア古典・日本文学の翻訳に没頭したが、最晩年に災難に見舞われた。

現在、中国国内の人士より周作人宛の書簡は約二万通あるが、その中から更に日本の友人より送られた書簡や葉書が数十通発見された。この二万通余りの書簡の年代は、一九一〇年代から一九六六年までである。周作人は書簡を大切に保管し、日記にも記した。一九四五年、国民党の軍隊による家宅捜査の際には、これらの書簡が持ち去られなかったが、文化大革命(1966)の際に紅衛兵の家宅捜査に見舞われ、遺品や書簡は全部持ち去られた。その二十

年後にこれらの書簡が北京の魯迅博物館にあるのを知って、関係部門との交渉により漸く書簡は遺族の手許に戻された。だが一部の書簡や手稿も紛失。例えば、周作人の手稿「日本近三十年小説の発達」が近年北京のオークションに高値で取引にされたのが有名な話だ。これらの書簡は、正に時代に翻弄された周作人の人生を物語っている。

インタビューを振り返って

英語・英米文学科 三年 丸岡 桃子



私は8月中旬に、株式会社レオパレス21において行なわれたインターンシップに行った。5日間の期間中、マナー講座、接客シミュレーション、他社との比較研究、プレゼンテーションなど、充実したプログラム内容を体験することが出来た。その中でも、後半に行ったレオパレス21と他店不動産との比較研究、そしてそのプレゼンテーションが特に印象に残っている。不動産業を深く知ることができ、店舗スタッフの仕事に対する思いも聞くことが出来たからだ。

私は一人暮らしをしたことがなく、引越経験も数えるほどにして過ごす時間もまた私に与えてくれた。今年、見渡す限り一面にコスモスの花が咲いているところに出かけることができた。それはもう夢の中にいるようです。もう少し身近に楽しむことができるのが、道路わきに咲くコスモスです。秋の青い空の下、数本ずつまとまって、その花と葉っぱをゆつたりゆつたりと眺め、また時にゆるやかに風にゆれているのを見ると、なんだかとても楽しくなってきます。日々こんなふう

に少しでも季節のそれぞれにふれることができれば、それだけで嬉しいですし、それを楽しみます。その後、廃れた都東京の西部に桜美林学園を創設、今や中学校、高等学校、短期大学を持つに至った、などと伝えた。

この書簡を貰った周作人は、翌年起きた文化大革命の嵐で紅衛兵からリンチを受けた。更にその翌年の五月六日この世を去った。毛沢東時代に公民権を奪われた周作人はギリシア古典・日本文学の翻訳に没頭したが、最晩年に災難に見舞われた。

平成二十七年九月期の学位記授与式が去る九月三十日(水)午後二時より本学礼拝堂において挙行されました。今年度は、文学部英語・英米文学科三名、日本語・日本文学科一名、社会福祉学部社会福祉学科一名の計五名が卒業いたしました。

関係学部の教職員の臨席のもと、厳粛に式が執り行われました。佐藤和博英語・英米文学科科長の司会により、パイプオルガンの演奏と讃美歌合唱に始まり、楊尚眞宗教授の聖書朗読、

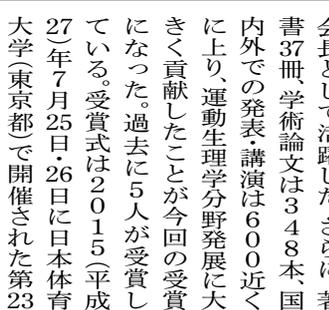
祈禱の後、吉岡利忠学長より卒業証書が授与されました。吉岡学長より卒業生にお祝いとお励ましの言葉が述べられました。式終了後には、卒業生一人一人に学長、阿保理事長より、またご出席された教職員の皆様から、お祝いの言葉や励ましの言葉が贈られ、握手を交わし、卒業生の新たな旅立ちをお祝いしました。前途に神の祝福があり



吉岡利忠学長、日本運動生理学会から 学術功労賞を受賞

日本運動生理学会は、日本体育学会の一分科会である運動生理学分野から独立した学術団体であり既に24年を経過している。人体機能に対するさまざまな運動刺激の反応をあるいは生体を取り巻く環境変動から分子生物学、遺伝子学、細胞生理学などの分子レベルの研究、もちろん形態学、解剖学、薬理学、生理機能学などのマクロ的な研究を発表、公表する学会であり、学術論文は逐次刊行されている邦文・英文の学術雑誌に掲載されている。現在、1500名程度の会員を擁する。学術大会は毎年夏頃に開催され、本年は日本体育大学、来年は鹿児島大学が予定されている。

学長は本学会の創立に関わり、評議員、理事として本学会の発展について考える良い機会になったと感じている。今後、自分がどんな進路に進むのかはまだ分からないが、どんなことを目指す上でも必要なことをこのインターンシップでは学ぶことが出来た。これからの目標ができたので、今後はそれに向かって頑張っていきたい。ますよう祈ります。



脳卒中急性期病棟での実習を終えて



看護学科 四年 佐藤 美紀

脳卒中の症状は「突然に」起こることが特徴です。脳の血管が詰まったり、裂けたりすることが突然生じ、その時から直ちに何らかの障害が生じます。そこで今回の統合実習では、脳卒中を突然発症し、危機的状況にある患者とその家族への関わり方の実際を理解し、それぞれの想いを尊重した看護について考

高齢者病棟での学び



看護学科 四年 千葉萌菜

高齢者は成人に比べて身体機能や生理機能が低下し、食事や排泄、日常的な動作が難しくなるという特徴があります。そして高齢化社会である現在、医療現場において高齢の患者さんが多くなっているという現状があります。患者さんを見守る上で、患者さんが今どのようなことが必要で、どのようなことをしたいのかというニーズを知ることがとても大切なことです。そこで統合実習では、高齢の患者さんとのコミュニケーションを通してニーズを知り、安全・安楽に看護援助を実施すること、そして患者さんと信頼関係を築くことを課題としました。

ていますか？」と聞き返したりしながら患者の希望を聞くように心がけました。たとえ、こちら側の声かけや説明に反応がはっきりしなかったとしても、援助を行う前には必ずそれについての説明をすること、そして患者の同意を得ることができました。

また、もう一人の患者には、一般的な脳卒中とその予防方法についてパンフレットを作成し、生活指導を実施しました。指導に用いたパンフレットは、分かりやすさ・見やすさを考えて、相手の立場にたって作成し、説明の際にも自分の持っている知識とあわせて情報提供しながら

を行いました。そしてこのような患者さんへの思いや看護援助をおこなう中で、患者さんと信頼関係を築くことができました。実習を通して、さまざまな職種との連携や家族との関わりが

ら指導を行いました。指導を行うというよりも、一緒に勉強しましょうという姿勢で患者に関わることで相手の立場を考えながら実施できたと思います。

看護者側にとって患者は一对複数ですが、患者からすると一对一の関係です。いつ、何が起こるか分からないので、優先順位を考えながらも時間がある時は様子伺いに訪室したり、援助の最中に会話したりするなど時間を有効に使うための工夫をし、平等に対応することが複数の患者の安全・安楽に繋がることを学ぶことができ、将来に繋がる実習をすることができました。

場面を実際に見て、看護師は患者さん中心の医療をおこなうために、患者さんが思いを表出できる看護援助をおこなっていき、常に傍にいて支えとなっていくということも学ぶことができました。

精神保健福祉援助実習を終えて



社会福祉学科 四年 三上佑佳子

私は、精神科病院と地域活動支援センターの2か所で実習をさせていただきました。精神科病院での実習では、社会的入院について実習課題の1つとして取り組みました。社会的入院とは、医学的にはもう入院の必要はないが、退院先等地域の受け皿がなく、長期間に渡り病院で生活している状態のことです。

社会福祉実習を終えて



社会福祉学科 三年 山本 明奈

私は8月3日から9月4日まで、社会福祉法人七峰会で運営していた「就労サポートひろさき」で実習をさせて頂きました。就労サポートひろさきでは主に施設内作業班と施設外就労班とに分かれています。施設内作業では、人参みやみずの皮むき、りんごのシルバースートの作業等理解し、日記帳にコメントすることで少しずつ会話を広げていきました。最後の頃には生徒たちと話せるようになり、人見知りも解消されました。最後に、4週間の教育実習の学びで、私は肉体的、精神的に鍛えられました。支えてくださった担当の先生はもちろん、励ましてくださった先生方や他の実習生の方々がいたからこそ無事に終えることができました。この経験を将来の自分に生かしたいと思えます。本当にありがとうございました。

多職種でのカンファレンスでの情報共有をしながら患者様に寄り添った支援をしていました。また、カンファレンスへの同席や多職種の方からのお話により、精神保健福祉士は、常に制度や外部施設等の最新の知識を持つことを求められていました。

次に地域活動支援センターでの実習では、利用者が地域でどのような生活をしているのか知ることを実習課題の1つとして取り組みました。実習前は「障がいがあることで地域での生活に生きづらさを感じているのではないか」と考えていました。しかし、利用者に関わり会話を体験しました。一つの作業でも利用者一人一人の個性が表れており、コミュニケーションの面でも個々への対応方法について考えさせられる場面が多々ありました。

施設外就労では施設内での作業に比べ、緊張感と責任感を持ちながら実習に取り組みました。利用者個々の可能性を引き出すことに着目し、「できないからやらせない」ではなく、「どのような方法をとればできるようになるのか」ということを考える時間が多かったのです。利用者本人が苦手とする部分において改善や能力向上に繋がられる部分と、配慮がある事で能力を発揮できる部分があることを見極めなければなりません。潜在能力を発揮できるようなイメージを持って支援する事が大切であると学びました。

また、利用者の作業能力や理解度により、反応は変わってきます。慣れてくることにより作業の流れを把握し自発的に行動

していく中で、自分の考えは間違っているのではないかと感じ始めました。それは、障がいがあっても自分らしい生活をしていくのだと感じ、障がいイコール生きづらさではないのだとわかりました。このことから自分が生活者の視点を持つことができていないと気付きました。自己覚知を深めることができました。

実習先には複数の精神保健福祉士の方がおり、それぞれの支援の仕方がありました。「自分はどういう精神保健福祉士になりたいのか」を思い描きながら、実習で学んだことを今後にかきつけていきたいと思えます。

できる方や少しの声かけで行動できる方、モチベーションが低下しており行動が億劫になっていく方など、行動の仕方は日によって変化する場合もありました。それに対して、モチベーションをあげる一言や自発性を高める声かけは非常に重要であり、日々意識しなければならぬと感じました。

私は実習によって、平日頃から意識的に行動することの大切さを学びました。たった一つの行動にも意味があり、それを考えることで初めて行動したことになります。社会福祉実習で経験した事はこれからの人生の中で財産になると思います。実習で得られた経験を活かし、自分の行動に責任を持ちながら、様々な場面で活かしていきたいと思えます。

教育実習を振り返って



日本語・日本文学科 四年 西沢 和広

教育実習で過ごしたこの4週間、私にとって長いようで短い実習期間でした。実際の現場は行ってみたいと分からない事ばかりで、大学で学んできたので何とかなるかなと思っていましたが、実際は本場に大変でした。実習初日まで指導案をしっかり作って作りましたが、実際に授業をしてみると上手く伝えられないということばかりでし



2015年度「弘学祭」を終えて

学祭実行委員長 日本語・日本文学科 二年 長利 拓哉

今年、10月11・12日に弘学祭を開催しました。皆様のご協力のもと無事に終了することができました。

今年のテーマは「Grand sum」としました。その意味は、「集大成」という意味です。本学の全学生、本学の教職員、地域の皆様やスポンサーの皆様といった幅広い方々と協力して弘学祭を作り上げていきたいという思いがこのテーマに込められています。

そんな戸惑うことだらけの私たちを支えてくださった、本学の学生、教職員、地域の皆様やスポンサーの方々に感謝を申し上げます。皆様の心に残る最高に楽しい学祭を胸に掲げてこまめに運営できたこと、いろいろな苦難や楽しい思い出、何もかも皆様の声援とご協力があったおかげでございます。本当にありがとうございました。

今年の学祭実行委員は、メンバーは二年生10名、一年生1名の計11名で構成されており、例年に比べメンバーが少ない状況からのスタートの中、「やるしかない」という気持ちから運営させていたいただきました。他にも当日ボランティアとして10

名以上の協力をいただき、当日を迎えました。今年度も一大イベントの「芸人お笑いライブ」を開催させていただきました。おなじみのバイキングさん、ピン芸人のギフト矢野さんをゲストに招きました。400席ほど用意された席は当日が雨にも関わらず、概ね満席になりとても温かい芸人ライブになりました。その中には近隣の大学生の姿や、地域の方々の来場もあり、皆さんが一つになって盛り上がりました。他のイベントとして、「書道パフォーマンス」「ダンス」などがありました。

また、今年は地域の方々にも協力していただき、学祭に参加していただきました。西弘前商店会の方々による出店、葛西久志教授ゼミとつながるネットの方々とのコラボ企画「地域づくりについて語ろう!」というテーマ



また、今年度は地域の皆様が一丸となって参加者も楽しめた学祭となり、主催者も楽しめた学祭となりました。幸いな気持ちで終わることができました。

今までの経験でも補えず、戸惑う中での学祭で、不安や心配を持ちながらの開催となり、また当日の雨により不安を掻き立てられました。しかし、たくさん

最後にもう一度、本学の学生、教職員、地域の皆様やスポンサーの方々へ感謝します。皆様のご協力とご声援のおかげで成功できたことを感謝いたします。本当にありがとうございました。

マでイベントが行われ、模擬店では、三つの福祉事業所の方々によるパン類やコーヒーなどの販売が行われました。

その他、千葉正司教授の写真展や井上諭一教授によるハイレゾを聴く《実証実験 2015》などの学部の先生方による展示、サークルによる展示も行なわれました。屋外では、各サークルの模擬店が出店されるなどバラエティーに富んだ内容となりました。

委員の「頑張って!」や「一緒に成功させよう!」「何か手伝えることがあれば言ってくれ!」と温かい声援や励まし、ご協力を頂くことができたこと、終わってからも「すごく楽しかったよ!」と言ってくださったこと、周りの人達が温かく見守ってくださったおかげで無事に終わることができました。反省点も多々ありましたが、来年開催することができたら、来年の学祭が出来る事を祈っています。もっと最高な学祭を作り上げてくれると期待しています。



写真提供:千葉正司先生

太宰の見た風の町

日本語・日本文学科 三年 斎藤かれん

9月13日は眠れなかった。次の日に「文学散歩」が控えていたからだ。小旅行の企画は私にとって初めてのことで、もし不備があったら、失礼があったらどうしようかと不安で仕方なかった。

いや、不安は初めからあった。それこそ4月の国文学会の定例会で、「文学散歩」担当委員に立候補した時からずっと。何から始めるべきなのか検討がつかなかった私は、不安を取り払うために過去の学会の引き継ぎ資料を片っ端から読み漁り、先生や他の学会委員と話し合いを重ねた。そうしてまず、学会委員を対象にアンケートを行った。ここで最も多く票が集まったのが、五所川原・金木方面の太宰治をめぐる旅だった。



太宰を軸に据えるならば、「斜陽館」は外せない。他にどんな場所があるか探していた時、ある先生から「外ヶ浜太宰会」を紹介していただいた。外ヶ浜町中央公民館に保存されている太宰に関する資料を見せていただき、会長の石田さんにお話をし

てもらうのはどうかと。「文学散歩」の目的は主に県内の文学ゆかりの地を訪ねることだから、行ける場所は限られている。ガイドブックに掲載されている場所ばかりを訪れる旅にもなりかねない。しかしそれではつまらない。大学だからこそ、「文学散歩」だからこそ行ける場所や聴けるお

話があげばいいと考えていた。そんな中で外ヶ浜太宰会を薦められ、私は即座に賛成した。そうして、「斜陽館」と外ヶ浜町中央公民館、観瀾山を巡る旅が決定した。

さて、当日まず訪ねたのは「斜陽館」。秋晴れが功を奏し、館内に差し込む太陽の光や日本庭園がその美しさを増していた。生活空間としても文化財としても素晴らしく、ここで過ごした太宰に思いを馳せた。

当日行くことが急遽決まった「賽の河原」に15分ほど滞在して、外ヶ浜町中央公民館へ。外ヶ浜太宰会会長の石田さんには、太宰の友人や知人、恋人

との関係、家族についてなどを、熱く語っていただいた。次に石田さんの案内で観瀾山へ向かった。小説「津軽」にも登場するこの山の頂上からは外ヶ浜(合併前までは蟹田だった)が一望



伊藤 瑠美(岩手県立大迫高校)

ライトホール 秋の陣

勉強の秋、スポーツの秋、食欲の秋。巷ではにんじんと糖きんまが登場し煮物もおいしい季節となりました。さて、ライトホールにお越しの皆様、ある変化に気付きましたか。

まず、日替わりプレートを購入しました!日々の食事に新たな彩りを添えます。栄養バランスを考慮し、果物やケーキを常

時そえることとしました。ラーメン等の種類ものメニューも週替わりで変化しています。唐揚げラーメン、もう食べてみましたか?エクレアやふりかけもライトホールに行けば買えることができます(知らなかつた人もいるのでは)!

できる。「蟹田つてのは、風の町だね」と太宰が評した通り、心地良い風が吹いていた。一日を通して、太宰治をより身近に、より親しく感じることのできる、とても濃密な時間だった。

最後に、今回の「文学散歩」は周囲の方々のご協力なくしては成功しえなかつた。適切なアドバイスをくださった先生方や先輩方、国文学会の方々から感謝したい。

2015(平成27)年度の弘前学院大学特待生(一年生)に、10月28日(水)12時より賞状の授与が行われた。今年度の授与者は次の方々です。

2015 一年生の特待生授与者

- 文学部 一年 工藤 早紀(弘前実業高校)
- 社会福祉学部 一年 赤平 奈南(弘前工業高校)
- 看護学部 一年 伊藤 瑠美(岩手県立大迫高校)



(文責 丸山)

来年(平成28年)、学校法人弘前学院はキリスト教主義に基づく教育を続けて創立130周年を迎えます。

地域社会への感謝を込めて、学生・保護者の皆様の負担を軽減するための記念事業を行います。

学生のための5つの改革

- 第1弾 学生のための教育改革**
学生一人一人に合わせた「分かりやすい教育」、「意欲の湧く教育」をさらに強化。
- 第2弾 キャリアサポートの強化**
学生一人一人と向き合い、寄り添い、納得と満足のいく就職決定までのサポート。
- 第3弾 新3号館(学生ラウンジ)完成!**
居心地の良い学生ラウンジが完成。弘前学院大学生協店舗もさらに充実。
- 第4弾 学納金(授業料)改定!(年額)**

文学部	70万円 → 65万円
社会福祉学部	84.5万円 → 70万円
看護学部	130万円 → 110万円
- 第5弾 『夢サポート20奨学金』新設**
(略称「夢サポ20」)授業料の20%を免除します。推薦入試I期、試験入試I期、大学入試センター試験利用入試A日程の成績により採用を決定。
採用人数 文学部15名 社会福祉学部10名 看護学部20名

※第4弾、第5弾は2016(平成28)年度入学者から適用します。